

あいちトリエンナーレ 2013 を迎えるにあたり

Litaracy

64



久しぶりに実家に帰ると、自分が子どもだった頃の光景がよみがえる。昔は、家の前の路地や、誰の土地かわからないような家と家の隙間(抜け道)、屋根の上などで、近所の子どもたちと遊び回っていた。

今は、自分はまちでどうやって遊んでいるんだろうか？ 小さいころの方がまちを遊び倒していた。

大人になり、まち「で」遊ぶことはできたとしても、まち「を」遊ぶことができていない気がする。

公共施設や公園など、つまりないという先入観や偏見を自然ともつようになってしまっていたが、この仕事にかかわるようになってからは、そこを利用・活用する人たちが変化することによって、ものの

見方や価値観が変わることを知った。

その場所がもつ歴史や、その場所ができた背景、そしてそこにかかわる人たちの思い。今、目で見てとれる歴史の痕跡はすくなくなつた。

でも今このまちにあるものは、時間と思いの遺伝子が組み込まれているはず。

トリエンナーレでは、こうした痕跡や遺伝子をアートというフィルターを通して、僕たちに新たなまちの見方や価値観に気づききっかけを与えてくれる。

今年は、岡崎が大きくかわつていくための年。

今はまだはじけずに、翌年からはじけられるように準備する年にしたい。

Text: Takahiro Yamada

まちのミカタ

Litaracy

2013.7 vol.64

発行・編集

特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・りた

〒444-0072 岡崎市六供町字杉本78-1

TEL (0564)23-2888 / FAX (0564)23-2898

http://www.okazaki-lita.com

http://www.facebook.com/okazaki.lita

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra/岡崎市内の地域交流センター 会員宛へ郵送 等 *会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

Ragslow/垂cha:la/森の花畑/FMおかせぎ/松懸寺/杉くんの駄菓子屋/FURA gallery/angelshare/長善館/cafeくらがり/コミュニティ・ユース・バンクmom/三河サドベリースクール シードーム

特集： あいちトリエンナーレ 2013

揺れる大地 ーわれわれはどこに立っているのか：場所、記憶、そして復活

東日本大震災において、繰り返し津波が来る場所なのだ、という記憶を失っていた土地の被害は甚大であった。それぞれの場所が持つ固有性、記憶について私たちは再確認する必要があるのではないか。

<http://aichitriennale.jp/>

あいちトリエンナーレとは

トリエンナーレとは、3年に一度開催される国際芸術祭のことを言います。このあいちトリエンナーレ2013では世界で活躍しているアーティスト達の作品が、名古屋市をはじめ、ここ岡崎のまちなかでも展開されます。

国際交流やまちおこし、観光客の集客、多様な国の多様な芸術に住民が触れ、アートを楽しみながら、日常生活ではあまり意識していなかったまちの魅力にも気づく機会を生み出してくれています。

はかない日々の営み、失われてしまったかのような過去の痕跡、それぞれの場所の持つ特性など、以前は当たり前のようにあった日常の記憶を呼び覚まし、現在を見つめ直す。

私たちのまちの未来に新たな種がまかれる瞬間を共に体感しましょう。

芸術がなすべき役割のひとつは、人類が生み出した最強の文化的な記憶装置として記憶を忘れないようにすることでしょう。そして記憶を呼び戻し、希望を復活させること。われわれが再び歩き出し、青い空を見上げることができるように。このトリエンナーレは、固有の場所に結びつく記憶と復活を通じて、アートの力を社会に問いかけ、われわれが生きるまちの輝きを増していくことを目指します。

ー五十嵐太郎（あいちトリエンナーレ2013芸術監督）

まちトリ

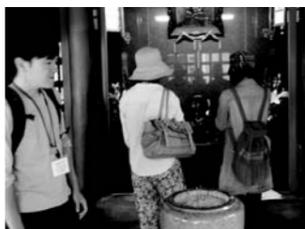
<http://machitori2013.com/>

まちトリは、「オフィスマッチングモール」「まちの縁側育み隊」「NPOりた」の者が、まちのトリエンナーレとして、名古屋会場と岡崎会場を訪れる人たちに、まちの魅力を伝えるために立ち上がりました。「まち」と「トリエンナーレ」の「トリ」で、まちトリです。「まちトリ」の取組みを紹介します！



1. ガイドツアーの実施

まちを訪れる来場者に、アートの会場間を楽しく移動してもらう「みちくさガイドツアー」を行います。



2. ガイドマップの作成

まちの文化やおススメスポットなど、アートを楽しみながら、まちの魅力に触れてもらうための「みちくさマップ」を発行します。まち歩きを楽しんでもらう企画満載です。



3. ワークショップの開催

参加作家によるアーティストトークや、アート作品ガイドツアー、市民参加型の企画など、まちとアートが出会う機会をつくります。



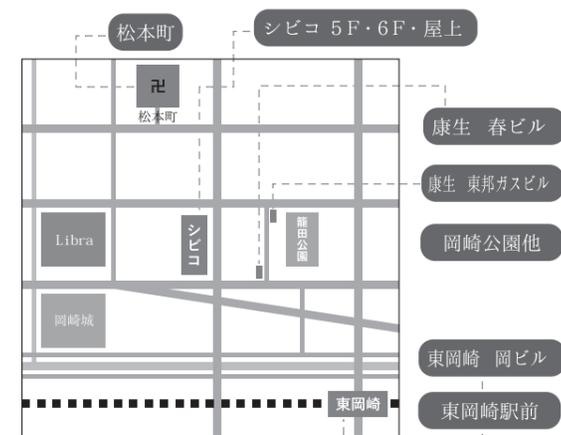
4. まちなか情報の配信

まちで起こっている出来事や、来場者や地元住民が発見した「新スポット」を、インターネットや紙媒体を通じて、定期的に情報を配信していきます。



岡崎会場の概要

東岡崎駅会場、康生会場、松本町会場で開催され、会期中は約10万人の来場を見込んでいます。今はもう使われていない空き家、空きフロア、空き店舗に、アートの力で新たな命を芽吹かせます。アーティストの詳細や開催概要は公式ホームページでご確認ください。



参加アーティスト一覧（写真は参考作品）

康生会場

レッド・ペンシル・スタジオ
インヴィジブル・プレイグラウンド（岡崎シビコ1階）
バシーア・マクール（岡崎シビコ5階）
志賀理江子（岡崎シビコ6階）
studio velocity / 栗原健太郎+岩月美穂（岡崎シビコ屋上）
平川祐樹（旧連尺ショールーム）
アリエル・シュレジンガー（春ビル）
ブーンズィ・タントロンシン（岡崎シビコ1階）

東岡崎駅会場

ゲッラ・デ・ラ・パス（名鉄東岡崎駅ビル）
オノ・ヨーコ（東岡崎駅北口広告掲示板）
ブーンズィ・タントロンシン（名鉄東岡崎駅ビル）

松本町会場

青木野枝（旧あざみ美容室）
丹羽良徳（旧今代）
山下拓也（旧入舟）



アリエル・シュレジンガー
《untitled (bicycle piece)》2009
：康生会場（春ビル）



レッド・ペンシル・スタジオ
《Non-Sign II》2010
Blaine, WA, United States Federal Government
courtesy of the artists
：康生会場



バシーア・マクール
《Enter Ghost, Exit Ghost》2012
courtesy of the artist
：康生会場（岡崎シビコ5階）



studio velocity / 栗原健太郎+岩月美穂
「空の見える下階と街のような上階」2012
courtesy of the architects
：康生会場（岡崎シビコ屋上）



志賀理江子 「螺旋海岸」 2012-2013
せんだいメディアテークでの展示風景
courtesy of the artist
：康生会場（岡崎シビコ6階）



ゲッラ・デ・ラ・パス
《Follow the Leader》2011
courtesy of the artists
：東岡崎駅会場（名鉄東岡崎駅ビル）



青木野枝 《空の水-11》2005
アートプログラム青梅
SAKURA FACTORY（青梅市）での展示風景
photo: 山本紉
courtesy of Gallery Hashimoto, Tokyo
：松本町会場（旧あざみ美容室）



丹羽良徳
《デモ行進を逆走する》2011
©Yoshinori Niwa
courtesy of Ai Kowada Gallery, Tokyo
：松本町会場（旧今代）